

各政党挨拶

田中健志立憲民主党京都府連合幹事長

寒い中、冷たい雨の中小さな子供さんも含めてたくさんお集まりいただきご参加されていることに感動しています。まずはお詫びです。本来であれば福山党幹事長がこの場で皆様にメッセージをするところですが公務でこられなくなりまして私が代理になりました。誠に申し訳ありません（注・福山幹事長は午後2時40分ごろ会場に到着し舞台にて紹介され立礼をされています）

立憲民主党からは山崎衆院議員の他に夏の参院選挙予定候補の増原ひろこさん、京都市政に向けて活動中の中京区の高間響・南区の白塚悦子も来ております。

立憲民主党は皆さんと共に原発ゼロをめざして活動させていただいております。昨日も福山幹事長の大きな集会があって挨拶の中で8年前の東北の大震災、福島原発事故に官房副長官として向き合って原発の恐ろしさを一番わかっているのが枝野委員長であり、福山幹事長です。原発が一度暴れ出したら人間の手ではもうどうしようもないのだということをお勢の皆さんの前でもお話をさせていただきました。その二人が先頭に立っているのが立憲民主党であります。つまりは立憲民主党は皆様と共に一日も早く原発をなくしそのための活動するという、そしてみなさんと力を合わせて原発をなくす原発ゼロ法案を成立させることをお誓い申し上げましてごメッセージとさせていただきます。

泉健太国民民主党衆議院議員

私も山崎さんと共にというか議員連盟・原発ゼロの会の会員でありまして、今国民民主党で政調会長をやらせていただいております。我が党はいろいろ言われるところがありますが昨年5月7日に結党した時、すでに基本政策に「2030年代原発ゼロをめざす」ということを明確に書かせていただいております。実はその中で今年我が党のエネルギー調査会が中間報告をまとめる。そういう中で表現が微妙にというか、ま、「2030年をめざして原発に依存しない社会をつくる」という表現を書いたわけです。ただ私はそこにちゃんとしっかり原発ゼロという言葉をしっかり入れましょう。と、あらためてですが政調会長の意見として述べさせていただいて最終的には原発ゼロを明記させました。やはり今はできるだけ広範な国民の層を集めて原発ゼロの機運を高めていかなければいけないと思っております。

皆さんも報道でお知りかもしれませんが、菅元総理からはえらい怒られたわけです。「国民民主党は牛耳られている」と。でも「菅さんそんなこと言ってはいけませんよ。分断ではなくやはり連帯していきましょうよ」という話をさせていただきました。我が党の中にもこの原発ゼロの会に入っている仲間がおります。私も先週福島第一原発を視察してまいりました。2号基と3号機の間をバスで通っただけで線量は60マイクロシーベルト、バスを降りたら200を超え300を超えるといわれているわけです。何故こんな人間が自らコントロールできないようなものを私たちはつくってしまったのか。改めてですがその人間の持つ恐ろしさを実感せざるを得ませんでした。周辺にはトラックやダンプしか走っていない。たくさんのプレコンしかない。家は空家ばかり。そこに人を一生懸命戻そうとしているけれど、こん

な地域を破壊してしまったのは原発なんだ。そしてこの原発は今稼働していないものを含めて天災、人災などで事故があれば同じような地域を生み出してしまうだろう。私たちはもっとその想像力を高めて全国民に訴えていく必要があるかと思います。国民民主党も皆さんと手を携えてその流れを作っていきたいと思います。

倉林明子 日本共産党参議院議員

私は福島県出身である事故は本当に他人事とは思えずに、事故の推移をどきどきしながら忘れることができません。いまだに 11 万人ともいわれる人が故郷に戻ることができません。原発はいらぬという国民の声は 8 年たっても鎮まるどころか拡がりに拡がっているのではないのでしょうか。その声が野党をまとめさせ、そして与党の中にもやっぱり原発はだめだという思いも拡がってきてるんだと思います。今、野党の国会の中で結束して原発ゼロ法案を審議しろと迫っています。確かに与党は応じていませんが逃げ切れるものではないと思いませんか。国民が声をあげて国会で法案の審議をするということになることをお願いしたいと思います。

安倍総理は何が何でも原発再稼働に固執しています。この安倍政権に原発ゼロを迫っても「うん」と言わないから、この点でも安倍総理をこの点でも倒すときではないのでしょうか。統一地方選と夏に参議院選挙が戦われます。野党は市民の皆さんと本気の共闘を原発ゼロでも貫き通して安倍総理を打倒し、原発ゼロを実現する政府をつくるために力をあわせて頑張っていきたいと思います。皆さん共にがんばりましょう。

豊田潤太郎 自由党京都府総支部連合会長

悪天候の中多くの皆さんがお集まりいただいたこと心からお喜び申し上げます。私どもの思いは今日お集まりの皆さんと全く同じであるということを最初に申しあげたいと思います。

現在安倍内閣は原発の再稼働を促進するという過ちだけではなく憲法 9 条を改悪するという暴挙にも出ています。また破たんしているアベノミクスを強引に押し進めて国民経済、国民の生活者、中央と地方の格差を増大しています。このような過ちを続けている内閣でありまして即刻退陣させなければなりません。安倍内閣を退陣させるには唯一政権交代しかありません。国政選挙において政権交代を成し遂げるのが今の安倍内閣に終止符を打つそしてこの原発の再稼働を停めることができるというわけであります。私どもはこの政権交代のために野党の結集が絶対に必要であるということを主張してまいりました。当然のことですが野党がバラバラで選挙に臨めば必ずわれわれは万年野党と言うことで政権交代は絶対にできません。

今。日本の人口の総人数は 1 億 2 千万、有権者は 1 億人です。そして最近の国政選挙の投票率は 50%つまり 5 千万人が投票されているわけです。が、今から 10 年前民主党政権が政権交代を成し遂げたときの投票率は 70%。要するに 2000 万票が動いたわけです。これを私どもは野党が結集して政権交代の期待が高まれば必ず投票率は上がります。10%上がれば 1000 万票、20%上がれば 2000 万票。現在の自民党でも 2000 万票はとれません。1700

万〜1800 万しかとれないのです。必ず野党が結集すれば政権交代はやすやすとできます。皆さん是非この原発を停めるためにも政権交代をみなさんと一緒に成し遂げようではありませんか。

飛鳥井佳子社会民主党京都府連合副代表

(歌。この部分は省略します)

古川豪さんが 40 年ほど前からデモ行進の時に歌って、私たちもあらゆる原発反対運動、私も 40 年位やってきました。伊方も玄海もあっちこっち本当に奔走しました。こんなにたくさんの人、多くの政党が来ておられます。当時は社会党だけだったけどほんとに多くの政党が夢のエネルギーと言わずに原発反対いうてくれて嬉しいです。

私福島へ行くのにそして岩手・釜石へ行くのに復興支援楽団を作りまして下手やけど 62 人みんなで仮設住宅へ励ましに行ってます。愛する人を亡くした人が日々ますますこの 8 年より大変苦しい思いをされています。これからも福島の皆さんに寄り添って少しでも活動します。社会民主党、東北にはいっぱい議員がいます。皆さんも是非東北に行って闘いを続けていきましょう。100 機体制だったのを 50 機にしたのもみんな先輩が頑張ってくれた結果です。50 機くらいすぐ廃炉にしていきましょう。社会民主党頑張ります。

小西晴也新社会党京都府本部書記長

東日本大震災福島第一原発の事故から 3 月 11 日で丸 8 年になります。大震災では揺れと巨大津波が福島・宮城・岩手の三県を中心に襲いました。福島第一原発は例をみない重大事故を起こしました。しかし国は事故が無かったかのように再稼働、原発輸出を進めています。一方、原発事故の被災者や被害者への対応・支援は遅々として進まないどころか福島棄民政策と言われることが顕著になっています。

棄民政策は 4 つあって第一は自主避難した人への住宅支援打ち切りと情報隠しです。第二には国際放射線基準をはるかに超えた年間 20 ミリ Sv への帰還解除と帰還強要です。第三には放射線被害の査証許可の特定です。第四には福島原発被災者・被害者への東電の責任回避と保証金の値ざりや切り捨てです。

安倍政権は一方では再稼働を強行して今やその数は 9 機に及んでいます。また稼働から 40 年を超えた老朽原発の再稼働、具体的には関電高浜 1・2 号機、美浜 3 号機を画策しています。しかし政府の原発政策は完全に破たんしていると思います。福島原発は 40 年廃炉としましたが汚染水の貯蔵の限界が近づいていますし、高速増殖炉もんじゅは廃炉、六ヶ所村の再処理工場は事故続きで完成のめどは全くついていません。原発輸出はどことも契約できずその成長戦略は壊れています。世界は脱原発に向かっています。核と人類は共存できません。脱原発や新規建設反対の運動は全国で粘り強く続いています。原発裁判も各地で行われています。事故を起こすと人間の手に負えず大きな犠牲もたらすことは福島で実証されました。脱原発の世論をさらに強めていしましょう。

長谷川羽衣子緑の党グリーンズジャパン共同代表

雨の中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。特にお子さん連れのかたは大変だと思います。私も震災後に生まれた5歳と2歳の子どもがいますが私がここにいると必ず舞台の上を走り回らだろろうと思っておいてきました。が、私が普段からデモに連れて行くせいか「歌うたって」というと「原発反対今すぐヤメロ」という歌を園でもどこでも歌ってみんなに脱原発の英才教育をしているなど言われます。

この8年間安倍政権が再稼働を掲げる中、一方で市民の粘り強い活動が少しづつ身を結んでいるなと思っています。特に差し止めを求めた判決でも画期的な判断がいくつかなされています。賠償を求めた去年の一連の動きに続いて、そして今年横浜地裁でも2月20日に国と東電の責任を認める判決が下されました。裁判でデモで様々な方法で闘い続けておられるここに集まれた市民の皆さんに心から敬意を改めて表したいと思います。

今ですねこの東アジアの国々、韓国・台湾で一度は立ち上がった市民の力で政府のトップから脱原発宣言を引き出すに至っています。でも日本は違います。原発事故を起こした日本からこそ今どのような選択をするのかが東アジアの国々そして世界に問われています。そして何よりも問われているのは未来への世代にだと思えます。子どもたちの未来のために、ここに集まったみなさんとそしてすべての野党のみなさんと共に脱原発を訴えてしっかりと闘っていきたいと思います。